



## 大国が始める戦争、それに自衛隊を動員？

「集団的自衛権」を口実に自公は自衛隊参戦のシナリオを描こうとしている。では、現代の戦争はどんな時に起きるのだろうか？

小国が戦争を始める？

小国が超大国と戦争をしたら大国の大量破壊兵器でめっちゃめっちゃにされる。それは、イラクの例で明らか。

イランも北朝鮮も、米国とドンパチやって勝てないことは明白。小国から戦争を始めることはあり得ない。

大国は？

米駆逐艦がベトナム沖でベトナム軍に攻撃されたと嘘のニュースを流して、米国はベトナム戦争を開始。

「イラクに大量破壊兵器がある」と嘘を云いイラク戦争を開始。

クリミアではロシアが大した論建でもなしに侵略。拒否権で国連安保理は無能だった。

現代の戦争は大国が小国を攻めて始まる。

アフガンで米兵の戦死、帰還者のPTSDで厭戦気分が広がった。そこで米軍が小国を攻める時、反撃を撃退する兵士が重要に。

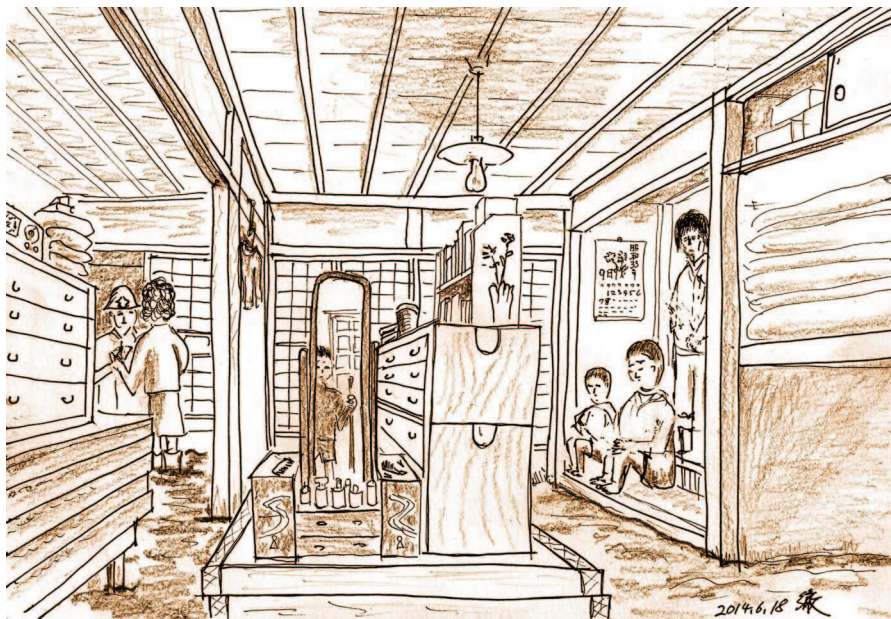
日本に集団的自衛権を認めさせれば、米軍への反撃は同盟国への攻撃として、集団的自衛権の対象となる。自衛隊を楯に戦争をできる。米兵の戦死が減れば、米議会も文句を云わないだろう。

逆に、我々が憲法九条を楯に集団的自衛権を認めなければ、米国は戦争をできない。超大国米国は戦争を始められないで、世界が平和になるのでは？  
皆さんはどう思われますか？

## 洪水の記憶

世田谷区

一九五八年九月



六月初め、横浜は二日で六月一ヶ月分が降る大雨でした。

一九五八年(昭和三十三年)九月の洪水の記憶がよみがえりました。伊豆半島の狩野川附近に甚大な被害をもたらした狩野川台風です。

その頃の我が家は目黒川の支流、蛇崩川から五十m。その川が氾濫しました。

水が玄関から徐々に流れ込んで来ました。父親は仕事で不在。水害の経験のある母は、子供達を指揮。畳が濡れないようにちゃぶ台の上に畳を載せました。

「消防署では胸まで来た。もつと水位が上がったら避難だ」と消防団員が回って来ました。少し高い床の間で、じつと水面と睨めっこ。幸い、床の間はセーフでした。水が退き始めた時のほっとした気持ちは忘れられません。